

酒々井町郷土研究会々報

第76号

平成7年4月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報部

日本の神々の系図 (二)

会田秀雄

稗田阿礼については前号でも書きましたように、舎人という官職に就いていることから男性とする説と、稗田氏は、神話でいうところの天照大神が天の岩屋戸に隠れた際に、岩屋戸前で身もあらわに踊りまくった天宇受売命の子孫である猿女君の一族であり、宮廷の大嘗祭や鎮魂祭などに奉仕した巫女の女系相続家系であるから、女性とみるのが妥当であるとの説があります。

阿礼の役割については、天武天皇の発意によって「帝紀」及び「本辞」を誦み習うことが阿礼に命ぜられたが、この「誦み習う」ことは、単に口誦伝承を暗誦することを意味するものではなく、「帝紀」と「本辞」の説

みを正しく誦み習うことであり、漢字で表現された国語、その古字の読みを正しく伝えることであったといわれています。また「古事記」本文の内容は天武朝にすでに完成していたが、当時国語を漢字で表記することは難しかったので漢文体で記述して和文で読むことにした。そのため誰にでも、そのまま読めるというものではなく、その訓読には別に読誦(暗誦)専従者を用意しなければならなかった。この読誦専従者が当時歳若かつた稗田阿礼であった。しかし、その阿礼も和銅年間ともなれば六の歳に近く、阿礼が亡くなる「古事記」を読む人がいなくなり、誰もその内容を理解出来ないという事態にもなる。この頃には国語の漢字表記も可能になっていたので、阿礼の読誦するところの「古事記」を漢字を使った和文体で書いたのだという人もいます。

「古事記」については、昔から難解な書物として扱われてきました。とりわけ上巻(神代の巻)は神々の名前が羅列的に記述されていて、古文書の研究者においてすら、一体何をいわんとしているのか理解に苦しんできたようです。むしろ古語や工代文法に造詣の深い学者達が、語源的な意味を付与しながら一応の解釈はしてきました。しかし、専門以外の人々が「古事記」を全文読みこなそうとした時、そのような逐語的解釈がどれだけ役に立つでしょうか。こうなる「古事記」は、単なる神話の寄せ集めにすぎないとか、後世に戯れに書かれたもので、歴史書としての価値のないものだと、あるいは偽書ではないかとまでいう説が出てきます。しかし、また「古事記」をデータ的な内容で成り立っている偽書とするなら、このように誤の判らないことを作り出すのは、非常に厄介な作業になってきます。だから「古事記」を誤の判らない造りごとの羅列と考えると、かえって偽書ときめつけるわけにはいかないことになりま

す。むしろ人間の意図が入っていないがために「古事記」の内容は判り難く、客観的な信頼性があり、それ故に「古事記」に書かれていることは全て真実であるということも出来ます。このような説を説える人には、江戸時代の国学者である本居宣長や平田篤胤がいます。本居宣長は「古事記」に書かれていることは、すべて真実であって、小賢しい批判精神をもってあれこれ解しようとしてもムダなことだと言っています。



上は稗田阿礼に本辞、帝紀の誦習を命じた天武天皇

左は「古事記」の最古の写本(国宝)名古屋市、真福寺(大須観音)蔵

古事記上巻、本辞、帝紀の誦習を命じた天武天皇の御遺詔(天武天皇御遺詔)の写本(国宝)名古屋市、真福寺(大須観音)蔵

平成七年度第十九回
定期総会報告

旧暦では元旦にあたるという
厳しい寒さのなか、平成七年一
月三十一日(火)午後一時三〇
分より酒々井町中央公民館講堂
において、第十九回定期総会が
百十余名の出席者のもと開催さ
れました。会議に先立ち阪神大
震災でお亡くなりになった方々
に全員で黙祷をして御冥福をお
祈りいたしました。会田会長よ
り明治から平成まで国内に発
生した地震についてお話があり
ました。福田豊吉氏の議長で議
事が進行され、事業報告及び決
算報告、七年度の事業計画案及
び予算案が審議され、満場一致
で承認され、滞りなく終了しま
した。

つきに七年度より新役員とし
て有田政勝さんが研修部へ、野
中カズ子さんが野草の会部へ入
部された旨紹介されました。最
後に阪神大震災への募金箱がま
わされ会員の暖かい心が寄せら
れ一万九千七百四十二円を日本赤
十字社に届けられました。

平成七八年度役員と役割分担名簿

役名	氏名	住所	電話	役名	氏名	住所	電話
顧問	金杉智恵			理事長	市川英子		
	沖田善三郎			副理事長	山内展一		
	田村道子			常務委員	野中カズ子		
会長	会田秀雄				林 芳子		
副会長	青木朝次				久我かす子		
	上田悦子				廣井久次郎		
会計	玉井 旭				江沢武夫		
	武藤厚子				古川國雄		
監事	福田豊吉				高橋 勝		
	中村 寛				福田芳江		
幹事	渡辺 徳				福田照子		
	上野和子				福田正一		
	寺本 忠美				相京 豊		
	筋 玉子				高橋喜重		
	鶴岡知子				櫻井徳三		
	有田政勝				白石栄子		
	行武政市						
	佐藤 照子						



月日	内 容	参加者数
H7.1.7	平成6年度会計監査	70
1.17	総会準備 運営委員会	20
1.18	名勝探訪 西新井大師方面	27
1.31	第19回平成7年度定期総会	112
2.18	史談会「史料:徳川酒々の歴史のひもとく」	18
2.23	野草の会「七草粥を食べる会」	90
3.4	運営委員会	20
3.8	県内見学会 銚子方面 A班	38
3.9	県内見学会 B班	38
3.18	史談会「史料:徳川酒々の歴史のひもとく」	13
3.29	会報発送	25
	延 数	408

事業名	説明	月														
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
1 町内史蹟めぐりハイキング	年1回 秋分前					○										
2 見学会	案内				○											
	案内															○
3 史談会	年9回						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	年1回				○											
	年1回															○
4 野草の会	年1回															○
	年1回															○
	年1回															○
5 名勝探訪	年5回															○
6 郷土史講座	年1回															○
7 史蹟礼拝会活動	年2回(中止)															○
8 会報発行	年4回															○
9 運営委員会	年5回															○
10 総 会	年1回(7月19日)															○

平成7年度会費について

平成7年度会費(期間1月1日~12月31日、年1000円)の納入の受付をしております。お済みになっていない方は、上記最寄りの役員宅が会長宅にご連絡下さいませようお願い申し上げます。(会長宅 TEL

猿仏塚に伝わる話

―名勝探訪西新井方面に参加して―

白石 栄子

会報で案内を見た時から猿仏塚(さるぼとけづか)と曰く因縁のありそうな名前に心ひかれていたのですが、それは車の行き来の激しい街中の、それもゴミの集積所になっていらくしくゴミ袋の山に囲まれたフェンスの中にありました。周囲の無残さに驚きました。ここが聞いた心うたれる話をお伝えしましょう。

むかし、この島根村のある家に一匹の猿が飼われていました。大そう賢く、心やさしい猿で、手伝いもよくし、家人に頼りにされていました。ある日、家人が猿に寝入っている赤ん坊の世話を頼んで出かけた。猿は心付いた家事をあれこれしながら留守番をしていましたが、眼をさました赤ん坊が一向に泣きやみません。「どうしよう」困った猿は、こんな時、母親が赤ん坊を湯に入れていたことを思い出しました。猿は母親がいつもしていたように水を汲み、湯を沸かし、タライに入ると、泣いている赤ん坊を大急ぎで湯に入れました。ところが大変なことが起きてしまいました。母親は湯加減を調整して赤ん坊を入れるのですが、そこが猿の哀しき、熱い湯に入れられた赤ん坊は火傷を負って死んでしまつたのです。猿は驚き悲しみ、自分のしたことにはたまたまれず川に身を投げてしまいました。村人達は、この猿を哀れみ、塚を造り碑を建てたといつております。

七年間家族の一員になっていたボギーという犬がいます。ボギーは賢い犬とはとても言えませんが、そのボギーにして、しばし小競りあいのある父母の仲をとり持ち、ひにすら家内平和を願う、そのことに日夜心を砕いています。われら夫婦が無事今にあるのはボギーの心づかいに預かっていると思う今日此の頃です。こんなことから伝説とはいえ、この猿の哀れきに一入心打にれたのでした。

七草粥を食する会 (17回)

2月23日(木) 公民館講堂

参加者 90名

会費 700円

お申し込みは、お電話ください。



粥前煮・酢の物・和え物・番の物・デザート

七草粥を考へた先人の知恵というものは誠に素晴らしい。お正月のご馳走に疲れた胃を休めるために、やわらかなお粥を食べる。その中に芽を吹いたばかりの新芽の強い生命力を取り入れて、無病息災を願ったとか。

季節感あふれる七草粥の習慣をずっと続けられるよう、春の七草(せり、なすな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ)などが、いつまでも私達の周りにあるような環境を、維持してゆきたいものです。

文・カット 奥山道子



案内板

上岩橋の獅子舞について
江戸時代中期頃から村の行事として伝承され、昭和四十六年、町の無形文化財に指定されています。
今年も例年通り四月三日に村の鎮守の駒形神社で午前九時頃から、菊賀神社で十一時頃から、大鷲神社で午後一時頃から獅子舞が奉納されます。是非お出かけ下さい。
広報部

史談会に参加して

上野 哲

二月十八日一時三十分から高橋健一氏を講師に迎えて中央公民館で史談会が開かれました。昨年八月の同講師の「郷土史講座」で「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」についての資料をいただきましたが、読めない、読めても理解できないなどで悩んでいたところ、今年度の史談会ではこの資料に沿って講義が進められるとのことでしたので楽しみに参加させていただきました。

史料を読むには、まず年代を正しく理解する必要があるとのこと。年代代表の説明において、改元(元号を改めること)にまで発展する程熱のある話が続きました。とくに印象的であったのは、安政の大地震における佐倉藩の状況、酒々井の被害状況についてでした。「酒々井」。「すいし」の起こりはいつごろか。「印藏沼」という呼び名が使われるようになったのはいつ頃からか。酒々井町の伝説である「カンカム口の椀貸しの話」と「酒の井の酒泉の話」は対になって各地に伝わっている。など。

興味のあることばかりの上、質問から話題が更に発展し時間の経つのも忘れ予定時間を一時間以上超過した程の有意義な史談会でした。史料には酒々井の歴史が満載され



みみで一杯み
くんでもつきない衆のように
よもやまばなしが つづきます。
どうぞ あなにも お仲間

ており、次回からの史談会が更に楽しみます。

須磨の「くぎ煮」

上田悦子

「お届け物ですよ」と言う声で玄関に出てみると菓子折の様な箱が目に入ってきました。何

となくひよつとしたら諦めていたものが届いたのではとの思いに、受取印を出すのもどかしく差出人の名前を見るや、思わず有難うございましてと配達の人の手を握りしめてしまいました。それは期待しては無理と諦めきっていた品「いかなごのくぎ煮」でした。瀬戸内の須磨や明石あたりで、三月初旬から中旬までの短期間のみしか入手出来ない「子いかなご」の佃煮なのです。ここ十年この時期に毎年送られてくるのですが、今年の喜びと感謝は格別です。早速あげてみましたところ、手紙がそえられていて次のようにしたためてありました。

「あの悪夢のような地面のうなつた日から、早や二ヶ月が過ぎようとしています。余震の続く休まらない日が続きましたが、最近では体に感じる地震も少なくなり、我が家もやっと元の生活に戻ったようです。

三宮の方は倒れかかったビルがまだそのままの状態であったり、長田区焼けた所は、まるで終戦時の映画をみているような、文明・文化の進んだ平成の時代とは思えない状態です。元の神戸に復興するのは、遠い先になるような感じさえ受けます。幸い西区の我が家の方は水道が一

日止まっただけで電気、ガスと不自由のない生活をしております。

震災で、いかなご漁を業としていたが、魚屋さんにも新子が並びぐぎ煮を炊くことが出来ました。今年は水温があがり育ちが良いのと、炊く時期が一週間ほど昨年より遅かったため、随分大きなくぎ煮になってしまいました」とあり続けて「機会があれば神戸に出かけて下さい。そして震災後の神戸を見ていただきたい。思いです」と書いてありました。手紙を何度も読み返しながら、震災で被害を受けられた方々の胸中を思い、送られた「くぎ煮」の一箸一箸が万感の思いです。毎年このことから、専門家が作ってみたいな味には出来ないしと家で話しながら、あたたかいご飯をいただくのですが、今年も昨年に変わらぬ味に、表現しきれない思いに酔いしれています。

会計報告

〈7年5月を食べる会〉 2/23(土)	
収入	会費 53,200
支出	食品材料費 47,686
	残高 5,514(前14年)
〈年内見学会 親子方面〉 2/21(土)・2/22(日)	
収入	会費 26名 76,000
支出	74,850
(内訳)	町会使用料 20,600 印刷代 6,000 印刷代 6,000 印刷代 6,000 印刷代 1,850 印刷代 5,000 印刷代 28,450 残高 1,150(前14年)

見学案内

名勝探訪

4/5 (水) 6/14 (水)

◎ 中山・鬼越方面

1/5 (水) 雨天代替 4/2 (水)

京成中山駅で降りて踏切りを渡ると法華経寺までの参道の両側は八百屋、土産物屋、食堂とちうと立寄りたくなるような賑やかな通りが続きます。

中山法華経寺は日蓮宗の大本山です。文応元年(一一六〇)、日蓮上人は、「立正安国論」を鎌倉幕府に提出したが認められず、迫害を受けたとき、千葉氏の家臣であった富木氏が日蓮の危機を救い匿い、堂宇を建立し、法華堂と称したのが始まりといわれています。広大な境内には重文の祖師堂、五重塔、法華堂などがあります。現在修復中です。その奥の院まで足をのびし、見頃の桜のお花見をします。

京成中山駅から鬼越まで電車に乗り、駅周辺で食事のあと、千葉県立現代産業科学館(平成六年六

月開館)へ。ここでは日頃のどうして、なぜ?といった疑問から、日本や千葉県産の産物の歴史等を楽しく体験しながら知ることが出来ます。皆で物知り博士に変身して帰りましょう。

◎ 原宿・恵比寿方面

6/14 (水) 雨天代替 6/21 (水)

原宿駅で下車し、緑深い社の明治神宮へ。菊の紋のついた一の鳥居をくぐり玉砂利をシャリク。次に檜造りでは我国最大の二の大鳥居と次の三の鳥居をくぐり本殿へ。参拝をすませて大鳥居まで戻り、隣接してある御苑によって見頃の花菖蒲で一息つきましょう。

駅に戻り竹下通りから東郷神社へ向かいます。海の英雄として崇敬もあついで東郷平八郎元帥が祀られています。そして今回のメインの恵比寿ガーデンへ。恵比寿駅から動く歩道に乗り、おしゃべりなデイトコース、ショッピング、映画館、ホテルなどの施設と高層住宅、オフィスビルが織りなす複合空間は一日中にぎやかな声が続切れることがあります。私にちもゆつくりと見学し、心を豊かにして家路に着きましよう。

一泊見学会

5/24 (水) 5/25 (木)

◎ 老神温泉 榛名湖方面

新緑の色増し青田に渡る風も快き候、風光明媚な日光中禅寺湖あたりの史跡と景勝を訪ね、虹マス、ヤマメの養魚場の白根魚苑で生態にふれ、夜は老神温泉でゆくり寛ぎます。

翌日は吹割の滝、榛名湖、榛名神社に参拝して帰路につきます。親しまれているコースですが、年一回の一泊見学会にご参加下さいますよう、ご案内いたします。

▼ 華蔵の滝 (日光市中宮祠)

男体山の火山噴出物が大谷川を堰止めて上流に中禅寺湖をつくり、その湖水の流出口にこの華蔵の滝を出現させた。三名瀑の一つで因指定の名勝。

▼ 立木観音 (日光市中宮祠)

一般に「立木観音堂」と呼ばれているが中禅寺の境内にある。坂東3ヶ所霊場の第18番札所になっていて、本尊の千手観音は膝道上人が自からカッラの立木に斧一丁で彫ったといわれるもの。鎌倉時代の作で因指定重要文化財。

▼ 竜頭の滝 (日光市竜頭の滝)

湯の湖から戦場が原を流れて来に湯川が、男体山溶岩上を斜めに急流をつくって奔流する滝で、長さ210m。5月上り下旬のヤシオツツジは美しい。

▼ 白根魚苑 (群馬県片品村東小川)

白根温泉の東2キロにある。6万㎡もの広大な敷地を持ち、虹マス、ヤマメの養殖場、苑内に釣堀・レストハウス・金精神社・絵馬堂など点在する。

▼ 老神温泉 (群馬県利根村老神)

片品川の溪谷に面した温泉街で、脚氣川場カサ老神と語られ湯治専門の湯であった。現代は飲泉的温泉郷に変ってきている。

▼ 吹割の滝 (利根村追見)

片品溪谷の一部で、花崗岩が浸食されてできた川床のV字谷にかかる滝で、両面の岩を吹き割るように、ゴウゴウと落下するさまに圧倒される。

▼ 榛名湖 (群馬県榛名町)

榛名火山のカルデラに生じた火口原湖で、大きさは東西1Km、南北1.9Kmで勾玉形をしている。冬期はスケート場として最適。

▼ 榛名神社 (群馬県榛名町)

榛名湖南西約2Kmの榛名山腹にある。延喜式内社で創立は用明天皇(585-587)のころと伝わる古社。境内は約15万㎡。寛政4年(1792)再建の本社は権現造で、岩窟内に御神体を祭っている。



郷土研行事業案内

平成7年4月～6月

	4月	5月	6月
史談会	4月は休ミです。 5月から4週の上曜に変更します 見学会・名勝探訪見学时65歳以上の方は身分証明出来るものを持参して下さい。(優待割引等のため)	27日(土)午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」(3) 講師 高橋健一先生 ※テキストご持参下さい。	24日(土)午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」(4) 講師 高橋健一先生 ※テキストご持参下さい。
名勝探訪	4月5日(水) 雨天代替 12日(水) 中山・鬼越方面 京成酒々井駅集合 8:25 京成酒々井 → 京成中山 → 中山法華経寺 → 奥の院 → 京成中山駅 → 鬼越駅(昼食) → 千葉県立現代産業科学館 → 鬼越駅 → 京成酒々井	6月14日(水) 雨天代替 21日(水) 原宿・恵比寿方面 京成酒々井駅集合 8:15 京成酒々井 → 日暮里駅 → 原宿 → 明治神宮 → 東郷神社 → 原宿 → 恵比寿 → 恵比寿ガーデン → 恵比寿駅 → 京成酒々井	
野草の会	野草観察の会 4月24日(月) 雨天代替 27日(木) 集合場所 京成酒々井駅 順大西口広場 9:00 持ち物 昼食及び飲み物持参して下さい。 順大方面を探訪します。ご参加をお待ちしています。	山菜を食べる会 5月18日(木) 12:00 会食(講座) 申込受付 4月11日(火) 9:00 公民館ロビー (お手持い出来れば9:00に調理実演して下さい。) 費用・定員 700円・80名 キャンセル 実施日前日まで 会田秀雄宅 TEL	
町内史跡めぐりハイキング (教育委員会共催)	5月14日(日) 雨天中止代替日 5月21日(日) 岩名仁王みちを歩く (コース) 京成酒々井駅東口広場 → 中川の二王ミチ道標 → 水神社 (中川の双体道祖神) → 新堀の双体道祖神 → 大佐倉勝胤寺 → 飯田麻賀多神社 → 菟眼寺 → 岩名仁王尊 → 岩名運動公園(昼食) → 京成佐倉駅(解散) 約9キロ 持ち物 — 弁当・飲みもの 参加費 — 1人 100円	5月14日(日) 雨天中止代替日 5月21日(日) 京成酒々井駅東口広場 9:00 集合	
1泊見学会	5月24日(水)～25日(木) (雨天決行) 申込受付 4月11日(火) 9:00 受付場所 中央公民館ロビー 定員 45名 費用 22,500円 キャンセル 5月19日まで(実施日5日前) 連絡先 会田秀雄宅 TEL	老神温泉・榛名湖方面 出発時間 7:00 公民館前 <1日目> 酒々井 → 湾岸高速 → 東北道 → 華蔵の滝 → 立木観音 → 中禅寺湖(昼食) → 竜頭の滝見学 → 金精道路 → 白根魚苑 → 老神温泉(☉) 朝日ホテル(0278-56-2011) <2日目> 老神 → 吹割の滝 → 茨川IC → 榛名湖 → 榛名神社(昼食) → 前橋IC → 川口JCT → 湾岸高速 → 佐倉 → 酒々井(18:00 頃帰着)	

此の度かねてからのご要望におこたえして野草観察の会を計画しました。まずは試みに気候もよくなりましたので、気をはらずにのんびりと中央台一丁目の亀井香久乃様を囲みながら、足元の本の草の名前からでも覚えられたら如何でしょうか。ご参加をお待ちしております。詳しくは行事案内に記載しますのでよろしくお願致します。

野草観察の会

野草の会部

あとがき



暑い寒いも彼岸迄とが、先日の大雷注意報以来この辺は雷はならずすみませんでした。大分春芽吹いてきました。二月の七草粥の会ではほとけのしの見分け方など教えて頂きました。郷土研に入り雑草一本にも楽しみが持てるようになりました。又、七草粥の会でおひたし一つにしても作り方、味付など見て食べて良い勉強になりました。出来本当によかったと思っております。春最中、暖かな陽の下で野草など散らして頂きながら歩くのも良いではないでしょうか。

成田街道の宿場であった酒々井は、芝山道、多古道などの分岐点でもありました。岩名仁王道も又、中川の地から分かれていました。
今は裏通りになってしまいましたが、国道旧五一号が京成酒々井駅へ向かう丁字路の火の見やぐらの所に朱で「二王ミチ」と彫られた道標が建っています。今回は、この道標から佐倉市



町内史跡めぐり

岩名の仁王さままでを江戸の昔に還って辿って行きます。
途中、千葉家の墓石群のある大佐倉の勝胤寺、飯田の麻賀多神社、菟眼寺を経て岩名の仁王さまに御対面。岩名の運動公園で昼食のあと、京成佐倉駅まで歩いてそこで解散します。約九キロ弱の行程です。



〔実施日〕
◎5月14日(日)
◎5月21日(日)
雨天中止代替日